

厚生労働省による公立・公的医療機関等の診療実績データ分析の  
結果公表（R1.9.26）後の動きについて

## ① 地域医療確保に関する国と地方の協議の場

※構成団体：地方三団体、厚生労働省、総務省

- ・ 第1回 令和元年10月4日
- ・ 第2回 令和元年11月12日

## ② 地域医療構想に関する自治体等との意見交換会

※厚生労働省による全国7ブロックでの意見交換会（10月17日～30日）

&lt;中国四国ブロック意見交換会 令和元年10月30日&gt;

【厚生労働省】 迫井大臣官房審議官 他3名

【徳島県関係】 徳島県、海陽町、県医師会、徳島県厚生連  
鳴門病院、東徳島医療センター、海南病院

&lt;各ブロック意見交換会で出た主な意見&gt;

## 【全般】

- 調査手法に対する質問・意見。
  - ・ 6月単月のデータでの分析は不適當。
  - ・ 人口100万人以上の構想区域では、「類似かつ近接」の該当病院は公表されず、地方の病院だけがやり玉に上げられた。
- 今後の進め方に対する質問・意見
  - ・ 民間データを含めた分析データの詳細はいつ示されるのか。
  - ・ 今後の進め方などに関する通知はいつ示されるのか。
  - ・ 再検証の期限を見直す予定はないのか。
  - ・ 今後公表される予定の「国が重点的に支援する地域」について、今回と同じような報道がなされると非常に問題。

## 【病院関係者、県・市の担当者】

- 必死に暮らしを守っている病院が名指しされると、そうした地域に人が住んではいけないのか、といった受け止めとなる。
- 職員にも不安が広がっており、職員採用や臨床研修医のマッチングへの悪影響が出ている。
- 地域医療構想を進めていくには、自治体の壁を越えなければならない。県や国が入り、指導してもらわないと話が進まない。
- 国においても、今回の混乱を打ち消すような広報に努めてほしい。

## 【保険者】

- 波紋を呼んでいることは事実だが、少なくとも議論を一步前に進めるきっかけになったと評価したい。大きな反発を招いたことで、データの公表を避けたり、忖度をしたりすることがないようにしてほしい。